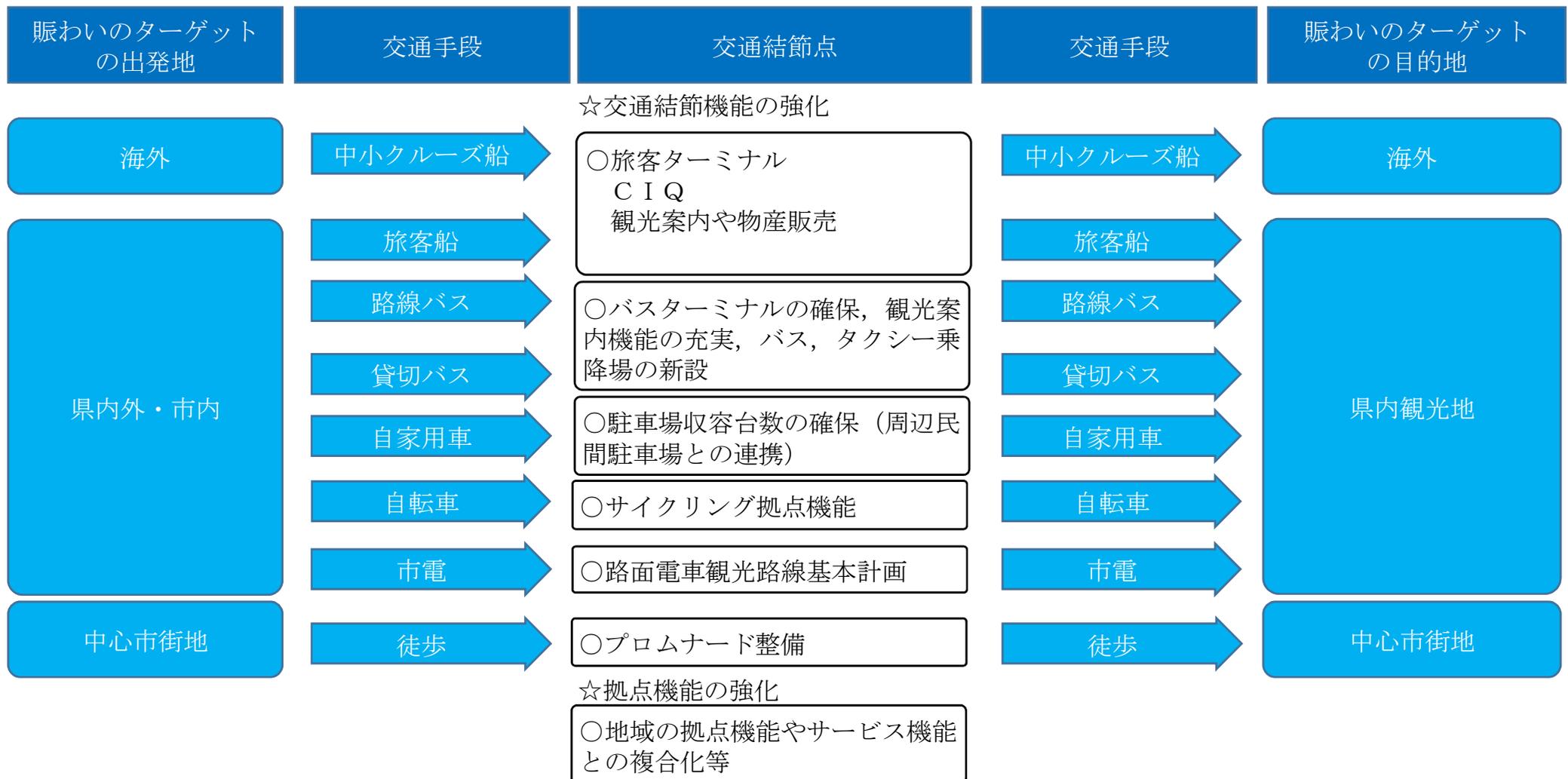


# 鹿児島港本港区エリアコンセプトプラン 付属資料

# ○交通拠点の機能強化

本港区へのアクセスは公共交通の利用を中心とし、本港区全体が持つ陸と海との交通拠点としての機能について、バス、タクシー、旅客船、市電等の公共交通機関に加え、自家用車、自転車、新たなモビリティサービスの普及などを視野に入れ、ターミナル機能の充実や交通モード間の接続の円滑化、プロムナードとの接続など、基本的な交通拠点機能の強化を図ります。加えて、地域の拠点機能やサービス機能との複合化等による拠点機能の強化を図ります。



# ○交通拠点の機能強化

地域の拠点機能やサービス機能との複合化等の事例

バスの待合時等、一定時間を交通拠点で過ごす場合に、その時間を快適に過ごせるよう、トイレや飲食、日用品、通信等、利便性向上に係る各種サービスを提供することが求められます。

待合所



案内施設



運行情報提供設備



物販施設



ATM, 自動販売機



コインロッカー



## ○北ふ頭 クルーズ船接岸状況と鹿児島市街地



船名：ル・ソリアル 総トン数：10,992トン 令和5年5月3日撮影

## ○北ふ頭 スーパーヨット接岸状況と桜島



船名：スカイ 総トン数：243トン 令和5年10月25日撮影

## ○本港区エリアの回遊動線と視点場（鹿児島港本港区エリア景観形成ガイドラインより）

水際線のプロムナードや、背後の市街地中心部からプロムナードへと繋がり、錦江湾・桜島、本港区エリアの歴史やまちなみ、活きた港の活動など、同エリアの魅力を感じられるルートを回遊動線として設定し、景観形成に配慮することとします。

また、同エリアの魅力を感じられる場所を回遊動線上の視点場として、錦江湾・桜島への眺望を確保する必要がある場所を「眺望の場」、まちなみや港の活動などを立ち止まって眺める場所を「佇(たたず)みの場」として設定します。



※現在、パブリックコメント中であり、その結果を踏まえ変更の可能性有り

## ○北ふ頭，南ふ頭における荷役作業等の安全対策

- ・ 北ふ頭における暫定活用では，立ち入り制限エリアの現状維持や一般車両・歩行者の誘導等による安全対策を講じます。
- ・ 両ふ頭とも，中長期的には，ペDESTリアンデッキ等による歩車分離を図るとともに，駐車場再編による一般車両進入の制限等により物流車両と一般車両の分離を検討します。

(北ふ頭の暫定活用における安全対策)

- ・ 立ち入り制限エリアは現状を維持します。
- ・ 一般車両の流入増加に対しては，流入を分散させるための対策（バス利用への誘導，北埠頭外駐車場への誘導，イベントの時間・規模等の調整等），県営第1駐車場満車時の待ち行列発生対策（駐車場案内システムや進入規制など），駐車場台数の確保（立体化など）などを検討します。
- ・ 歩行者の増加に対しては，潮風通りへの誘導（潮風通りに近い県営第2駐車場への誘導や潮風通りの案内板の設置など）などを検討します。

(両ふ頭における中長期的な安全対策)

- ・ フェリーやクルーズ船への乗降客と物流車両との輻輳を避けるため歩車分離を検討します。  
(例えば，「ボーディングブリッジ」の新設や，既存の旅客ターミナルに設置してある「スカイデッキ」の有効活用，延伸など)
- ・ 物流車両と一般車両との輻輳を避けるため，両ふ頭外への統合による一般車両進入の制限を検討します。

物流・人流動線の分離 (イメージ)



駐車場案内システム (イメージ)



出典：地理院タイル（淡色地図）を加工して作成

立体駐車場 (イメージ)



鹿児島県撮影

# ○臨港道路等における渋滞対策の考え方（1 / 2）

- 現在、鹿児島北バイパスや鹿児島東西道路、臨港道路鴨池中央港区線等の整備が進められるとともに、今後、本港区エリアにおける賑わい創出に伴い、パブリックアクセスの増加が見込まれることから、将来、臨港道路や本港区エリア周辺の交通量の増加が予想されます。
- 特に、鹿児島北バイパスは臨港道路本港区線と接続することから、この交通の分散を図るための対策を検討する必要があります。



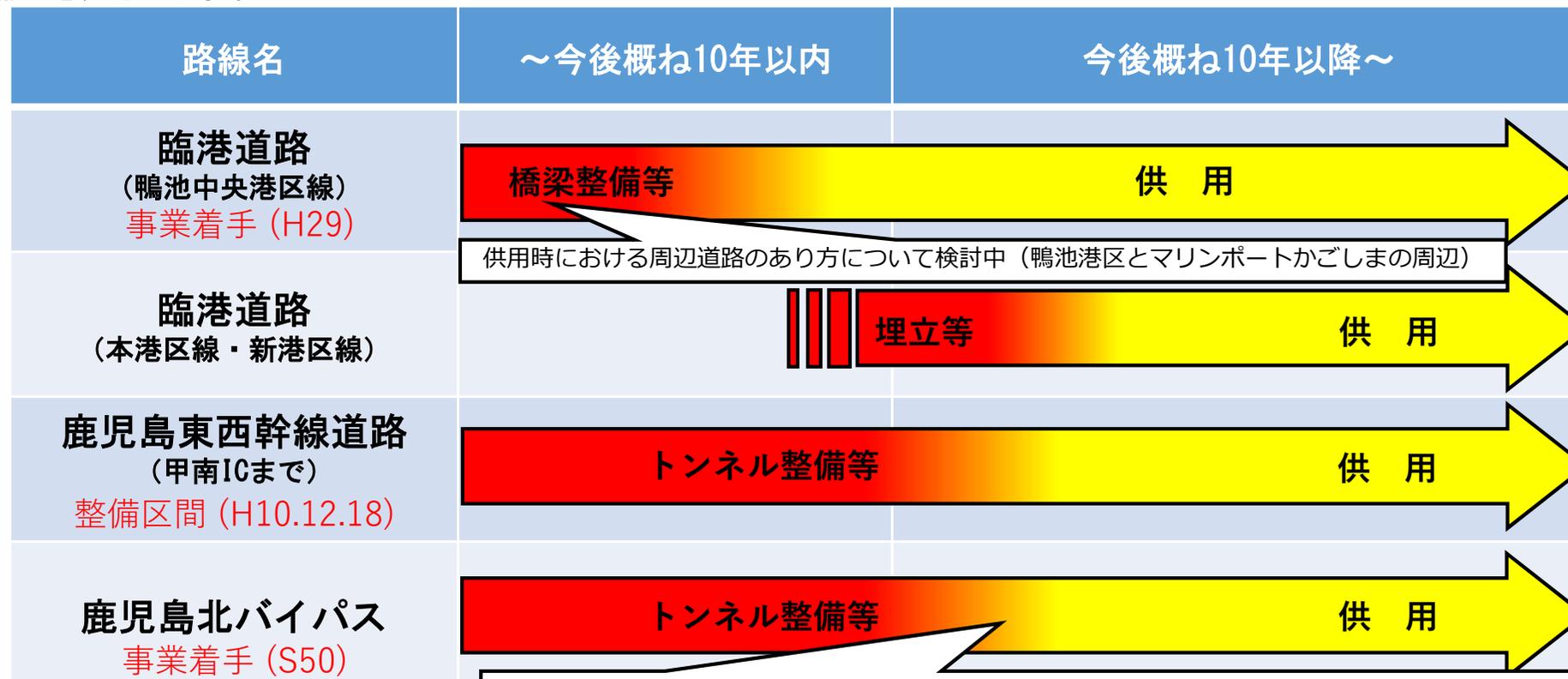
※現時点で想定される  
事業スケジュール



## ○臨港道路等における渋滞対策の考え方（2 / 2）

- ボトルネックとなっている臨港道路（本港区線・新港区線）のクランクの改良について、小型船溜まりの整備と併せて優先的に検討します。
- 鹿児島北バイパスが本港区エリアへ直結する時期を見据え、国・県において、交通の分散を図るための対策や鹿児島南北幹線道路の整備効果を検討します。

### 現時点で想定される事業スケジュール



このほか、鹿児島東西幹線道路（甲南IC以东）や鹿児島南北幹線道路についても事業化が見込まれる

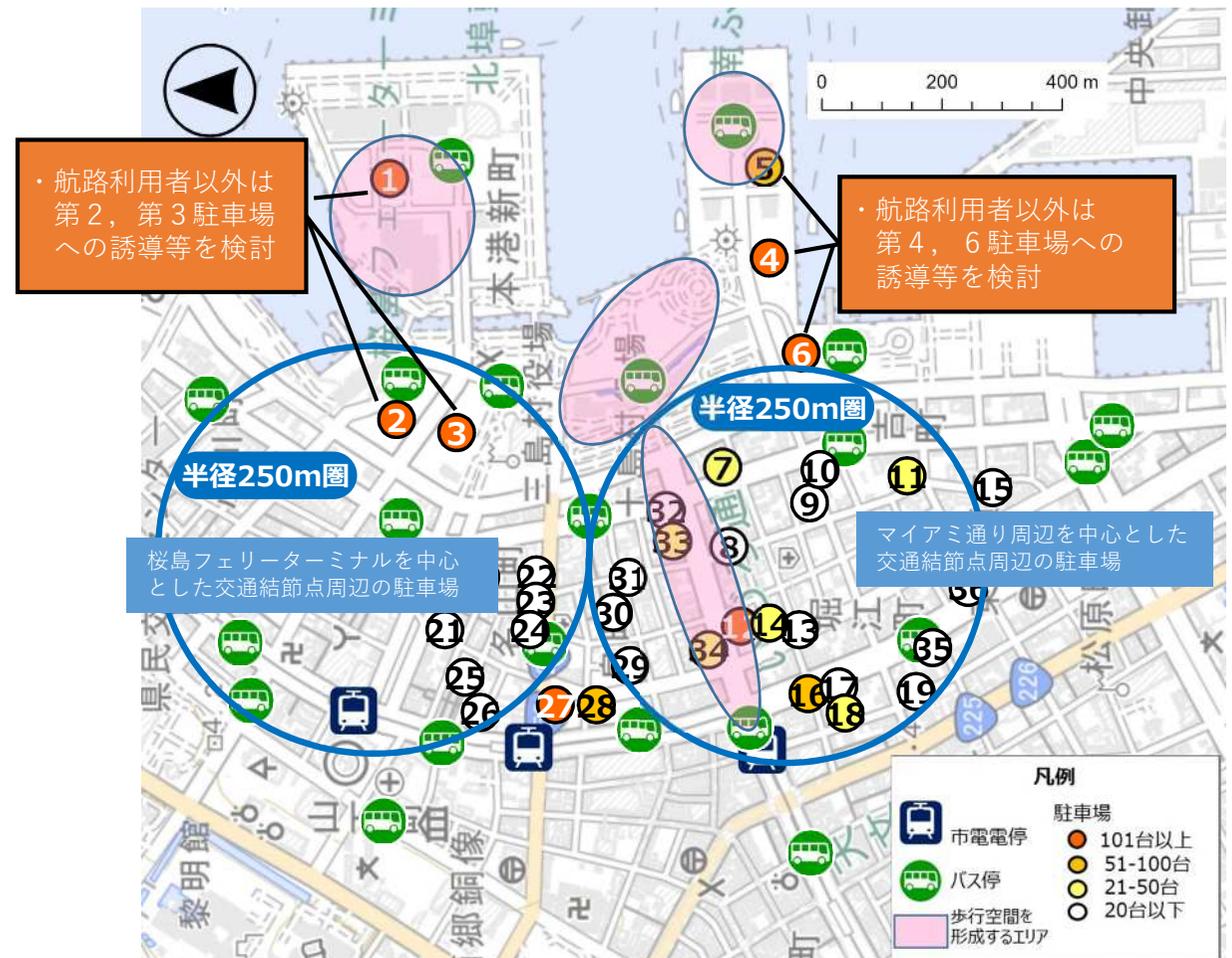
- 臨港道路（本港区線）の交通の分散を図るための対策として想定されるメニュー
- TDM施策（ソフト対策）
    - ・ 本港区イベント時に道路情報板による鹿児島北バイパス旧道への交通誘導など
  - 交差点改良等
    - ・ 右折レーンの延伸，車線増設など
  - 鹿児島北バイパス～県道の接続
    - ・ 平面接続，高架化による立体接続など
  - 交通運用の変更
    - ・ 一方通行化，リバーシブルレーン化など

## ○駐車場収容台数の確保の考え方

・本港区へのアクセスは公共交通の利用を中心としつつ、自家用車によるアクセス増加に対応するためには一定の駐車場の確保が必要です。その際、既存の駐車場ストック（本港区外の民間駐車場を含む）の有効活用を図りつつ、新たな駐車場立地について、臨港道路等の渋滞対策の観点から以下のとおり誘導します。

- ✓ 歩行者中心の空間等からの外縁（フリンジ）化
- ✓ 臨港道路に接道する駐車場について、出入口の位置や構造面での工夫等

・県営駐車場については、上記の考え方並びに公共交通機関との交通結節機能の強化の観点から、必要に応じて対応を検討します。



## ○コンベンション機能を導入する場合の考え方

コンベンション機能を導入する場合は、本港区エリアにおけるコンベンション機能導入に係るこれまでの整理等を踏まえ、大規模の会場として一定のコンベンション・展示機能を有するスポーツ・コンベンションセンターの機能を最大限活用しながら、同センターの補完・連携も視野に、同センターに不足する機能について、住吉町15番街区への導入を視野に検討することとします。

### 本港区エリアにおけるコンベンション機能導入に係るこれまでの整理等

#### ■ 鹿児島港本港区エリアまちづくりグランドデザイン [H31.2 鹿児島県]

- ✓ 土地・建物活用の方向性に係る民間提案公募及び対話において、住吉町15番街区については、エリアの中で最も離れており、エリア一体としての活用は難しいことから、エリア一体の利活用とは別な形で、ホテルやコンベンションなどでの利活用が提案されている。

#### ■ コンベンション・展示機能を備える施設に係る整備可能性調査報告書 [R4.2 鹿児島県]

- ✓ 県内施設で特に不足している機能は、①大規模の会場（3,000m<sup>2</sup>以上、6,000人以上）、②中規模の会議室や多目的ホール（200m<sup>2</sup>～1,000m<sup>2</sup>未満）、③フレキシブルに使える分割可能な平土間（1,000m<sup>2</sup>）である。
- ✓ ①～③のいずれにも対応できる「総合型MICE施設」（例：出島メッセ長崎）や、6,000m<sup>2</sup>の展示面積を持つ特化型の「展示施設」を整備することが望ましいが、これらの施設については、コロナ禍による市場変化の過渡期にあり、将来的な需要見込みの変動リスクが高い。
- ✓ このことから、まずは、一定のコンベンション・展示機能（①）を有するスポーツ・コンベンションセンターを最大限活用することが最善である。
- ✓ ただし、この場合は、中規模の会議室（②）やフレキシブルに使える会場（③）が課題として残ることに加え、コンベンションなどの開催においては、宿泊施設や飲食施設との連携が重要であることから、周辺施設と連携を行うこと。

#### ■ 鹿児島市中心市街地及びウォーターフロントを中心としたまちづくりに関わる提言 [R5.1 鹿児島商工会議所]

- ✓ 住吉町15番街区について、MICE施設（2,000人規模）とあわせ、コンベンション開催に必要なバンケット機能やVIPが滞在するホテルなどでの利活用が提案されている。

#### スポーツ・コンベンションセンター

コンサート等の6,000人超の比較的大規模なイベント等の開催に対応するための機能を導入

#### 交流・宿泊（複合型コンベンション施設）

新幹線や飛行機での来訪が期待されるビジネス等の客層による、比較的頻度が高い2,000人程度の学会や国際会議、展示会等のビジネスを中心としたコンベンション機能、展示機能、宿泊機能、飲食機能を導入

幅広いMICE需要に対応

## ○県民から寄せられた利活用のアイデアのとりまとめ

「賑わいのターゲット」と「鹿児島（本港区）の魅力」の整理（1/6）

- 第2回検討委員会 森下委員提出資料「英国の観光戦略」を参考に、県民から寄せられた利活用のアイデアから、本港区に賑わいをもたらすペルソナ（「賑わいのターゲット」）を整理した上で、求められる魅力（「鹿児島（本港区）の魅力」）や導入機能を検討しました。

第2回検討委員会 森下委員提出資料「英国の観光戦略」より

### 【ターゲットとするJapanマーケットのペルソナ】

1. 将来政治やビジネスのリーダーとなるような大学生
2. 家族旅行
3. 子供がいない共働きのカップル
4. 子供が独立した親
5. 定年退職後のシニア
6. 出張後に観光する職業人

# ○県民から寄せられた利活用のアイディアのとりまとめ

「賑わいのターゲット」と「鹿児島（本港区）の魅力」の整理（2/6）

	いただいた御意見（実際の御意見から抜粋（※一部加工））	賑わいのターゲット（例）	鹿児島（本港区）の魅力（例）※
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>マリンポートに寄港するクルーズ船の乗船客を高速船で北ふ頭へ運び、中心市街地へ誘導することで回遊性が図られると考える。</li> <li>大型クルーズ船の乗客には、マリンポートからDP跡地まで運行する臨時バス路線を設定し、2～3時間でもオアシス的場所でくつろいでいただくような提案も考える。</li> <li>観光（国内客・国外客）に力を入れるなら、大型観光バス100台～200台程度の駐車場は必要。大型の免税センター（県内特産品）を中心にバスターミナルを設置。桜島フェリーを利用して、世界の美港に負けない鹿児島湾クルーズ・桜島周遊の食事付き観光に力を入れる。その場合、本港区の免税センターや観光センターが中心となる。</li> </ul>	（マリンポートかごしまに）大型クルーズ船で訪れる観光ツアー客（団体旅行者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>マリンポートかごしまや鹿児島市中心部との交通結節点</li> <li>情報交流，憩いの場</li> <li>船から見た港や街並みが美しい空間</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿児島らしい観光スポットや飲食店，ホテルが立ち並び、世界の富裕層が集うイタリアのミラノのようなヨットハーバーがあり、そして夜景もきれいな函館や神戸のような明るい海辺がある施設は魅力があります。</li> <li>鹿児島の魅力を前面に出すリゾートホテルとして最高の立地です。桜島を目の前に眺めることができ、鹿児島の美味しい肉や魚を堪能し、おしゃれな焼酎バーがあってもいいかもしれません。開放感があり非現実的な空間が期待できます。</li> <li>海には大型ヨットに限ったハーバーを作り、海外からの立ち寄りを受け入れる。南仏の港のイメージである。</li> <li>北埠頭は大小クルーズ船の専用岸壁とし、その背後にはターミナルを設けて、それに隣接する鹿児島には無い商業施設やホテルを設ける。また、大型のクルーザーやヨットも泊められたら、ウォーターフロントパークからの眺めも最高ではないだろうか。</li> <li>世界的寄港地と肩を並べる鹿児島になりませんか？世界の海の男たち、特に海軍に尊敬の念を持って称えられているアドミラル東郷が多賀山から見下ろす錦江湾に世界中のヨット、クルーザーが停泊している姿を想像してみてください。</li> </ul>	スーパーヨット等で訪れる超富裕層	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿児島市中心部との交通結節点，回遊性</li> <li>情報交流，憩いの場</li> <li>船から見た港や街並みが美しい空間</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>このエリアは南九州最大の繁華街である天文館から徒歩圏内にあることから、人々が交流し憩う場があれば多くの人回遊することが期待され、同時に、観光立県を標榜する鹿児島県としてはインバウンドを含めた県外客も楽しめる場ともなります。</li> <li>巨大道の駅が良い。桜島が見える。鹿児島弁が聞こえる。足湯がある。鹿児島側からの押しつけではなく、他県人が鹿児島に求めるもの。</li> <li>巨大な観光案内所（資料館，物産館など）。鹿児島の歴史が学べたり、観光地を紹介したり食材の紹介であったり温泉を紹介であったり、鹿児島に観光に来た方が案内所に来る事でSNSでも見れないような生の声で観光プランを組んであげたりするような場所。</li> <li>観光客をはじめ全ての人々が、鹿児島の興味のある場所へ行くことに繋がる「発信地」として、鹿児島の歴史と文化に満ちた多くの観光地を現代の技術を駆使して紹介するような施設。鹿児島全域の案内や説明に長けた人材が常駐して、鹿児島各地に存在する唯一無二の魅力的な場所へと案内し、橋渡し役となる重要な施設。</li> </ul>	鹿児島県内の観光地を訪れる観光客（個人旅行者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通，車，徒歩など多様なアクセスが可能な場</li> <li>情報交流，憩いの場</li> </ul>

※全ての項目について、「桜島の魅力を楽しむ空間」は共通

# ○県民から寄せられた利活用のアイディアのとりまとめ

「賑わいのターゲット」と「鹿児島（本港区）の魅力」の整理（3/6）

	いただいた御意見（実際の御意見から抜粋（※一部加工））	賑わいのターゲット（例）	鹿児島（本港区）の魅力（例）※
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の離島航路や、桜島航路も、生活航路であるとともに、天然の観光魅力にあふれた航路であるから、<b>離着岸施設の工夫</b>や海の観光PRに力を入れ、収益の道を探してほしい。</li> <li>離島航路利用者の利便性改善。<b>点在している離島航路フェリーターミナルの利便性向上のために集約化等</b>を実施。ターミナル集約化等に伴う、バス・タクシー等公共交通とのアクセス改善。</li> <li><b>離島便へのアクセス</b>。水族館も繋がりに行ける道、フェリー乗り場も繋げて。目的を沢山持たせた施設でなければ人がたえてしまいます。</li> <li>北ふ頭旅客ターミナルを活用している唯一の航路、<b>喜界航路は南ふ頭に移動</b>させ、北ふ頭は小型・中型のチャーターを含む観光船の発着場にすればいいと思います。</li> <li><b>北埠頭にある喜界航路を移転整備</b>する。安全な荷役が必須である港湾機能の確保と賑やかさを求める港湾交流機能の活性化との間に、水と油のような相反性があるため、共存よりは移転整備することを提案する。</li> <li><b>喜界・奄美航路は北埠頭南側に発着</b>させ、規模に見合った施設を再整備することが良いかと思います。</li> <li>鹿児島港の各埠頭は最も北の桜島埠頭から南端の鴨池埠頭方面別に点々と分散しており、航路同士の乗り継ぎや市街中心への利便性は高いとは言えない状況にあります。<b>南北に分散している離島ターミナルを数珠繋ぎにするようにモノレールまたは新交通システムを構築</b>していくことは離島航路の利用促進はもちろん、鹿児島のウォーターフロント地区の将来像を大きく変えていく可能性があります。</li> <li>いづろからドルフィンポート跡地前から住吉地区まで<b>市電を延長</b>すれば、高速船や離島航路の利用者（現状はいづろから重い荷物を引きずりながら歩いている方が非常に多い。）の利便もよくなります。</li> </ul>	<p>離島にお住まいで離島航路や本港区をご利用の方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利便性の高い交通結節点</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>スケボーパークとストリートダンスができる場所</b>を作してほしいです。<b>若者が楽しめる街</b>を若者のための街づくりをお願いします。<b>東京の真似じゃなく独自の世界観で世界中から人が集まる鹿児島</b>を希望します。</li> <li>スケートボード片手に公園に訪れる少年たちは？子供だけではなく、大人一歩手前の若者にも公園を利用してほしい！オリンピックなどから注目が増え始めたスポーツ競技をする場所をつくりたい。<b>本気で遊びを楽しめる、何歳になっても本気になれるものができる空間</b>を。</li> <li>eスポーツは子供から高齢者まででき、身体障害者でもできます。<b>eスポーツ施設</b>はその全ての者が交流できる場所になるということです。まだまだ発展途上であり、これを民営ではなく行政が力を入れることに意味があると思います。</li> <li>若者は決して広くて大きなショッピングモールや遊戯場は求めていません。<b>例えばデートどこ行く？じゃあとりあえず行って決めるかみたいな感じの場所</b>がほしいのです。バスに乗って電車に乗って行き、公園もあれば<b>美術館</b>でその人との思い出プラスその時見た美術品を自分の思いのままにでき、ちょっとした店があり、開けた景色を一望し、見慣れた桜島を見て今日もいつもと変わらないと思うそれは<b>とっておきの場所</b>です。</li> <li>もしアートで生まれるコミュニケーションの中に桜島があったら。語り合う人々の目に、桜島が映ったら。多くの人が桜島をもっと身近に感じ、そして気づかなかったことに気づかせてくれるのではないのでしょうか。<b>鹿児島にしかない魅力を、アートの力、つまり人を笑顔にし感化できる力で県民の方々にも県外から来られた方にも発信</b>していける。<b>そんな場所</b>が欲しいのです。</li> </ul>	<p>趣味や遊びを楽しみ交流を深める若者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互交流を育む空間</li> </ul>

※全ての項目について、「桜島の魅力を楽しめる空間」は共通

# ○県民から寄せられた利活用のアイディアのとりまとめ

## 「賑わいのターゲット」と「鹿児島（本港区）の魅力」の整理（4/6）

	いただいた御意見（実際の御意見から抜粋（※一部加工））	賑わいのターゲット（例）	鹿児島(本港区)の魅力（例）※
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿児島県は観光県でもあるため、「稼ぐ」ことが優先され県民の生活の質の向上は後回しにされる印象がある。まずは県民がそれぞれの目的で集いやすい多目的な場所となり、そこが評判となって観光客も訪れる。その順序が守られることを強く願う。</li> <li>桜島と錦江湾を眺望しながら人が賑わうスペースの創出を提案する。程よくできたたまり場にストリートカルチャーが生まれ、休日には移動販売車の店が立ち並ぶ。グランピング、公園・広場の機能を掛け合わせ、<b>非日常と日常の人がともに憩うサードプレイス</b>になり多くの人にとって開かれた場所になることを期待する。</li> <li>憩いの場、ふれあいの場、成長の場として<b>老若男女過ごせる広場</b>が良いです。朝市を催し鹿児島の食と文化を堪能できる環境。夜はナイトマーケットを行うもよし、週末のフライデーフェスや骨董市、蚤の市、フリマ、オーガニックフェスタなど。薩摩は人をもって城となす。人を1番に考えた選択肢をご検討ください。</li> <li><b>子連れで楽しめるエンターテインメント港町</b>という雰囲気にする！！子連れでも安心できるトイレかその他利用できるスペースを作る。ゆったりとお散歩できて、オシャレな買い物もできて（服飾雑貨）。子供をあずけてパパとママが1時間ほどデートできたり。<b>ここへ来ることで、ストレスフリーになり、良い気持ちになれるように、自由参加型の運動レッスンをしてほしい。</b>（ヨガ、太極拳、その他トレーニングなど）</li> <li>健康増進等のために桜島と錦江湾を背景に<b>野外ステージ、散策、ジョギング、サイクリング</b>等で多くの人々が集い、<b>憩いの場となる海岸通り公園</b>のような観光客と市民が一体的に楽しめる空間を創造する。</li> <li>スポーツ・コンベンションセンターと併せて、<b>多くの利用者が交流可能で心身と社会的な健康を向上させる多目的緑地スペース</b>も確保します。</li> </ul>	より豊かで充実した日々の生活を過ごす方	<ul style="list-style-type: none"> <li>癒やしを与え、心身と社会的な健康を高める空間</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>隣接のウォーターフロントパークと合体させて南九州随一の<b>多目的型の「公園」</b>にしませんか？国内外のデザイナーに公募してぜひ全国から鹿児島に行ってみたくなるような場所を作りませんか？個人的にはニューヨークのセントラルパークみたいになるといいなと思います。</li> <li>本港区エリア全体を大規模な公園として整備し、県民だけでなく観光客にも<b>錦江湾越しの桜島の絶景を楽しむ・くつろげる場</b>として提供する。</li> <li>本港区にある錦江湾と桜島の雄大な景観は、何物にも代えがたい鹿児島の財産である。この自然景観を保全し、市民の誇り、心の拠り所、憩いの場として<b>緑地公園</b>を整備し、後世にいつまでも大切に残してほしい。</li> <li>桜島を前面に見据えた、他所にはない<b>貴重な景観を生かす観光施設</b>を作る。緑地公園を作り、花々を植え、季節ごとにイベントを行ったり、何もなくても誰もが桜島を見ながら憩える場にする。噴水があってもいい。丸い小さなプールがあってもいい。</li> <li>桜島が見える港町として、<b>桜島を見ながらのんびり散策ができる場所</b>にする。公園を整備し、ベンチや芝生でのんびりできる。海沿いの遊歩道を整備し、桜島+海で映えスポットになる。</li> <li>私が本港区と聞いて連想するのは、デッキから見える青々とした海と悠々と佇む桜島です。小さい頃はドルフィンポート広場の、あの明るい雰囲気が好きでよく連れて行ってもらっていたことを思い出します。家族連れの賑やかな声の中、<b>桜島に見守られているような場所</b>だと感じました。</li> <li>桜島や錦江湾を眺め、大きな樹の下で子どもたちを昼寝させ、緑の芝生の上で駆け回ることができる。<b>海と何もない風景</b>。何もないことに意味がある。鹿児島らしい時間を過ごすことのできる貴重な場である。</li> </ul>	本港区周辺に宿泊／お住まいで桜島を見ながら散策を楽しまれる方	<ul style="list-style-type: none"> <li>徒歩による回遊を楽しめる連続的な空間</li> <li>憩いの場</li> </ul>

※全ての項目について、「桜島の魅力を楽しめる空間」は共通

# ○県民から寄せられた利活用のアイディアのとりまとめ

「賑わいのターゲット」と「鹿児島（本港区）の魅力」の整理（5/6）

	いただいた御意見（実際の御意見から抜粋（※一部加工））	賑わいのターゲット（例）	鹿児島（本港区）の魅力（例）※
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿児島は子供を連れて遊びに行く所が少ないように思います。九州以外のところからも観光客を呼ぶには、もう少し鹿児島で遊ぶところが欲しいです。子供を連れていく所がないよね…と親友達で話をしています。</li> <li>子連れ家族の旅行では、旅行先での行動/移動範囲が制限されるため、複数の観光体験がパッケージ化されて家族で一日過ごせる複合施設を訪問先として選ぶことが多い。現状の鹿児島本港区は、滞在時間も短い。鹿児島本港区で、複数の観光体験が可能な複合施設を導入することを提案する。</li> <li>私は鹿児島市本港区エリアを「鹿児島のイベントの中心地」として整備すべきと考えます。</li> <li>体育館もスタジアムもスポーツイベント以外の大規模イベントに利用されることが今では当たり前となっています。県内でも有数の大規模イベント開催の実績があるウォーターフロントパーク、そして8000人収容予定の県体育館、15000人から20000人の集客能力が見込まれるサッカー等専用スタジアムとそれぞれの施設を活かし多彩なイベントを開催し、グランドデザインにある「来て見て感動する観光拠点」を目指します。</li> <li>汎用的で芸術性のあるスタジアム施設が良いと思います。サマーナイト花火大会の際には有料席としても使えますし、夜には桜島側にスクリーンを張って野外シアターとして運用するのも面白いと思います。活火山を背景にライブをやりたいと思う有名アーティストが来鹿する機運も生じるはず。県全体の財産となる、壮大なスタジアムを建設するプロジェクトを示してもらえれば、こちらとしても心が躍るというものです。</li> <li>鹿児島駅から天文館を通ってスタジアムにいけるルートができれば、その先々でサポーターが飲食をし、景観を写真に撮って発信し、鹿児島での体験を日本中、世界中に紹介することができると思います。私は昨年、新潟から来鹿した際たくさんのツイートをしました。それを観たフォロワーの方から「鹿児島を旅しているようで楽しかった。」「鹿児島に行きたくなった。」「鹿児島ユナイテッドFCの試合を見に行って100円の芋焼酎が飲みたい。」等声を掛けてもらいました。</li> <li>地域活性化・憩いの場・健康増進の場としてのコミュニティ機能を持ち、鹿児島の新たなランドマークとなる施設を是非とも鹿児島本港区に作って欲しい。世界でも珍しい活火山を見渡せるスタジアムだったり、景観を生かしたスポーツ施設がある事によって、シドニーのオペラハウスのように世界中から一度は行ってみたい施設になると考える。またスポーツツーリズムを通して来鹿する観光客も見込めると思う。そういう意味で、新スタジアムと新体育館は本港区内に必要。人が集まりやすいところに、人が集まる施設を作るのは地元の人にも観光客にも親切。繁華街も近いので、天文館を中心に県内全域にお金が落ちる施策や施設を本港区に創設して欲しい。本港区は市民県民はもちろん、ツーリストが喜ぶエリアにして欲しい。</li> </ul>	ハレの日を楽しむ 家族連れや若者	<ul style="list-style-type: none"> <li>お出かけの目的地としての魅力を持つ空間</li> <li>参加、体験の場</li> </ul>

※全ての項目について、「桜島の魅力を楽しめる空間」は共通

# ○県民から寄せられた利活用のアイディアのとりまとめ

「賑わいのターゲット」と「鹿児島（本港区）の魅力」の整理（6/6）

	いただいた御意見（実際の御意見から抜粋（※一部加工））	賑わいのターゲット（例）	鹿児島（本港区）の魅力（例）※
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿児島市が今後、世界にひらかれた国際都市として発展し、また、世界自然遺産を有する離島地域や沖縄への航路とも連動し、離島地域の振興にも寄与するものである施設が望ましいものと考えます。具体的には、同様に港湾地区に立地し、コンベンションセンターとしての役割を基本としながら、<b>大規模なコンサートや国際会議、スポーツイベントにも活用</b>されているマリンメッセ福岡が参考になるのではないのでしょうか。</li> <li>鹿児島でも大きなイベントが行える様な施設を作るのも一つの考えかと思えます。マリンメッセ福岡のような施設に近いものが良いのかと思えます。<b>学会からコンサート等幅広く使える施設</b>が鹿児島にとっても必要な気がしています。</li> <li>鹿児島県の未来を考えるうえで、今後も中心地としての利用が想定される本港区エリアでのまちづくりには、交通等の中心機能や桜島を臨む景観といった魅力を持つ都市空間の有効な活用とそうした魅力を発信し体感できる拠点や<b>全国規模のスポーツ大会・国際会議等を開催できる施設</b>が必要である。</li> <li>コンベンションセンターに<b>国際学会等の国際会議ができる機能設備</b>があると海外の観光客増にもなる。展示会には講演会がセットで行われる場合が多い。</li> </ul>	<p>各種大規模イベントの参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロスポーツ大会</li> <li>国際会議、学会、シンポジウム</li> <li>ライブツアーなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通、車、徒歩など多様なアクセスが可能な場</li> <li>参加、体験（観戦、観覧）の場</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>本港区エリアはオフィス街も比較的近いので、<b>コワーキングスペース</b>があれば、平日も利用客が訪れる可能性が高い。</li> <li>鹿児島のシンボル桜島が見える場所で、<b>Uターン、Iターン希望者に起業の場を提供</b>し、マルシェに集まるお客様との交流を通して事業を軌道に乗せ、県内各地で本拠地を構えるための『巣立ち』を支援する。</li> <li>北ふ頭のターミナルビルは、クルーズ船等の受入のための機能は残しつつ、<b>事業者のオフィスとしての機能</b>やイベントスペース、エンターテイメント空間として多くの人々が自由に活用できるスペースとしての利用が考えられる。</li> </ul>	<p>新しい働き方を選択するビジネスパーソン</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働く場（ビジネスセンター）</li> <li>公共交通、車、徒歩など多様なアクセスが可能な場</li> </ul>

※全ての項目について、「**桜島の魅力を楽しめる空間**」は共通

## ○県民から寄せられた利活用のアイデアのとりまとめ

### ○本港区エリアのまちづくりに対する期待の整理

- 第4回検討委員会でのポスターセッションやプレゼンテーションでは、提案者と検討委員、または、提案者相互の質疑応答や意見交換、交流が行われ、それぞれの利活用のアイデアが千差万別であるものの、提案者同士で共感でき、共通項となる期待、想いのようなものがあることができました。
- このため、ゾーニングの検討を進めるに当たり、県民からの利活用に関するアイデアから、県民が共感し共有できる本港区エリアのまちづくりに対する期待をキーワードを整理しました。（KJ法※により、県民から寄せられた利活用のアイデアにおいて、どのような空間としたいかを表現したキーワードから整理）
- 整理した本港区エリアのまちづくりに対する期待について、賑わいのターゲットや導入機能の検討、ゾーニング素案に活かしました。

※KJ法：断片的な情報・アイデアを効率的に整理する目的で用いられる手法。一般的に、KJ法では、カード状の紙（付箋）に1つ1つの情報を記し、そのカードを並べ変えたりグルーピング（グループ化）したりすることで、情報を整理する。「KJ」は、考案者である川喜田二郎氏のイニシャル。

### 【参考】

- 横浜市では、教育文化センター跡地活用事業を通じて、望ましいまちづくりを進めるため、関内駅周辺地区の新たな方向性を示すとともに、教育文化センターの跡地活用に期待するものとして、複数の望ましい活用イメージの例を示すため、平成29年に「関内駅周辺地区AREA CONCEPT BOOK」を策定し、まちづくりの方向性について、次のとおり掲げている。

「国際的な産学連携」「観光・集客」の新たな拠点ができる街／スポーツ・健康を通じた新たな価値が生まれる街／文化芸術活動や企業活動が生まれる街／風格のある景観を有し、環境にも配慮された街

- また、同市では、新市庁舎（令和2年竣工）の整備にあたり、横浜市の考える市庁舎における、広い意味でのデザインや、新市庁舎がまちづくりで果たすべき役割について、事業者はもとより、市民の方々にも事前にお伝えし方向性を共有することで、広く愛される新市庁舎を実現するため、平成27年に「横浜市新市庁舎デザインコンセプトブック」を策定し、「新市庁舎のミッション」について、次のとおり掲げている。

～開港の街から持続可能で豊かな国際都市へ～

人、自然、街がつながる開かれた市庁舎を具現化し、市民と共にOPEN YOKOHAMAを創出する。

# ○本港区利活用の方向性についての分析

どのような空間としたいかを表現したキーワードについての整理 (たたき台)

## 港の景観を活かす(まちづくり)

## 生活の質を高める(まちづくり)

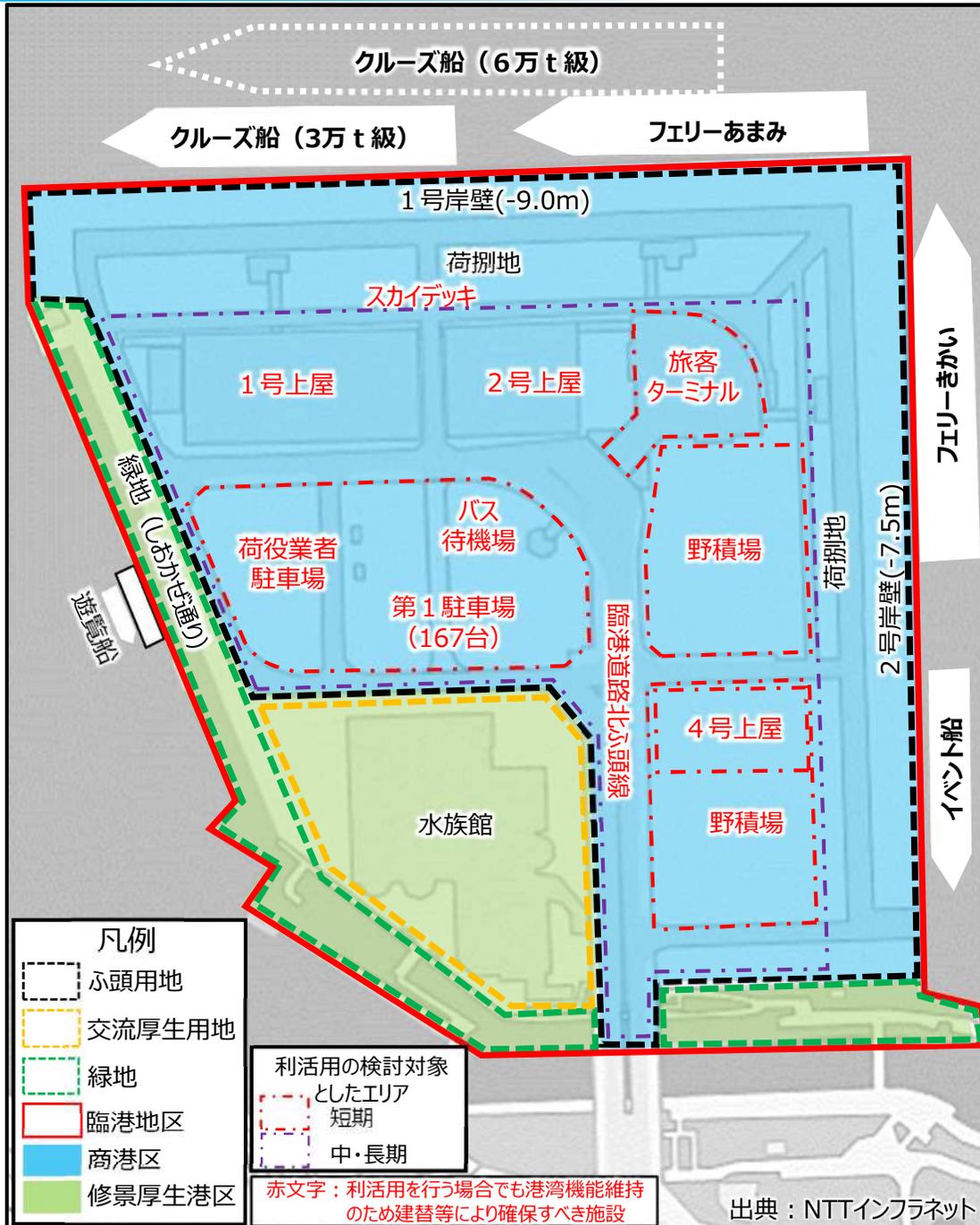
## アクティブに楽しめる(まちづくり)





○エリア毎の特性の整理

北ふ頭エリア (現状)



<土地概要>

○面積：約111,000㎡

<土地所有者>

○岸壁敷，緑地敷の一部：国 ○水族館敷：鹿児島市  
○上記以外の敷地：鹿児島県

<港湾計画>

○港湾計画：ふ頭用地：約84,000㎡，  
交流厚生用地：約15,000㎡，緑地：約12,000㎡

<埠頭保安規定 (SOLAS)>

○1号岸壁

<土地利用規制>

○港湾法分区指定：商港区（ふ頭用地）  
修景厚生港区（水族館，緑地）

○都市計画法

- ・用途地域：準工業地域
- ・特別用途地区：第一種特定建築物制限地区

※ 港湾法（第58条）に基づき、臨港地区の分区が指定された区域においては、用途地域及び特別用途地区の規定は適用されない。

<用途規制> (建築可能な主な用途)

- 商港区（ふ頭用地）  
港湾施設：旅客待合所，倉庫等，  
港湾関係の官公庁の庁舎，事務所  
店舗（物品販売，飲食等）  
宿泊施設（ホテル，旅館），中央卸売市場
- 修景厚生港区（水族館，緑地）  
福利厚生施設（港湾関係者のためのスポーツ施設，  
レクリエーション施設）  
公共公益施設（図書館，博物館，展示施設，展望施設等）  
店舗（物品販売，飲食等），便益施設，  
税関，海上保安部，港湾管理者等の庁舎等

<形態規制>

- 容積率：200%，建ぺい率：60%，  
床面積：1万㎡以内（都市計画法適用の場合）
- 高さ：標高約35～約50m（鹿児島市景観計画）

○エリア毎の特性の整理

南ふ頭エリア (現状)



<現状>

○南ふ頭は、鹿児島港と西之表港（種子島）を結ぶ「プリンセスわかさ（1便/日）」、鹿児島港と宮之浦港（屋久島）を結ぶ「フェリー屋久島2（1便/日）」、鹿児島港と竹島港～硫黄島港～大里港～三島～片泊港（三島）を結ぶ「フェリーみしま（4便/週）」及び鹿児島港と西之浜漁港（口之島）～中之島港～切石港（諏訪之瀬島～南之浜港（平島）～やすら浜港（悪石島）～小宝島港～前籠漁港（宝島）～名瀬港（奄美大島）を結ぶ「フェリーとしま（2便/週）」のそれぞれを結ぶ離島定期航路が発着し、物流・人流の拠点として利用されている。

○年間の取扱貨物量は約122万トン、乗降客数は約12万人（H30）となっている。

○先端部の岸壁（5号岸壁）については、イベント船や研修船などが接岸し、船員の休養、船舶への給水などに利用されている。

○県営第4（98台）、5（140台）駐車場については、フェリー利用者等に使用されているが、イベント時以外は空車が多い。

